

## 平成25年度第1回八幡地域協議会会議録（HP版・概要）

日 時 平成25年4月24日（水）午前10時～午前11時55分

場 所 八幡タウンセンター 第3・第4会議室

出席者（12名）

1号委員 齊藤善之 土井明敏 新保直美 荒生栄治  
池田昭則 村上 薫 加藤俊行 佐藤康晴  
長谷川明子

2号委員 後藤純子 池田善幸 阿部喜至夫 小松幸雄  
高橋知美

欠席委員 なし

八幡総合支所：支所長 佐藤 弥、地域振興課長 後藤啓、建設産業課長 小野芳春  
市民福祉課補佐 石塚 裕  
地域振興課 土井保子 鳴瀬 勉

傍聴者： なし

### 議事日程

～本間酒田市長は松山・平田両地域協議会を回ってから到着予定のため、先に委員の自己紹介及び資料の説明等を行うこととした～

- 1 開 会
- 2 地域協議会の設置趣旨等について
- 3 委員の自己紹介
- 4 市長あいさつ
- 5 会長及び副会長の互選
- 6 会議録署名委員の指名
- 7 平成24年度地域協議会市長報告会について
- 8 平成25年度八幡総合支所地域づくり予算及び管内予算について
- 9 酒田市の平成25年度主要事業について
- 10 旧3町の合併後の再評価について
- 11 会議の持ち方及び運営等について
- 12 その他
- 13 閉 会

## 1 開 会

○**事務局** 本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。本日の会議の進め方ですが、市長が午前10時15分頃、到着予定になっており、委嘱状交付の前に地域協議会の設置の趣旨等について説明させていただきます。

## 2 地域協議会の設置趣旨等について

○**後藤地域振興課長**（資料1 地域協議会の設置趣旨等について説明）

## 3 委員の自己紹介

～職員、委員が自己紹介～

## 4 平成24年度地域協議会市長報告会について

○**後藤地域振興課長**（資料2、資料3 平成24年度地域協議会市長報告会について説明）

## 5 平成25年度八幡総合支所地域づくり予算及び管内予算、酒田市の平成25年度主要事業について

○**後藤地域振興課長**（資料4、資料5 平成25年度八幡総合支所地域づくり予算及び管内予算、酒田市の平成25年度主要事業について説明）

## 6 会議の持ち方及び運営等について

○**事務局**（資料6 平成25年度八幡地域協議会年間予定案について説明）

～市長が到着、各委員に委嘱状を交付～

## 7 市長あいさつ

○**本間市長** おはようございます。お忙しい中、地域協議会にお集まりいただきありがとうございます。初めて委嘱を受けられた皆さん、引き続き委嘱の皆さん、今後2年間よろしくお願ひしたいと思います。2010年の酒田市の人口は111,151人だったが、2040年には、71,170人になるのではとされている。36%減るということで極めて大変な話である。今の人口をスライドさせて行くとこの数字になるが、少しでも人口減少を食い止める施策が大事であり、そういった意味では鳥海山を有する自然豊かな八幡地域の魅力が生きてくるものと思われる。この地域協議会の皆さんから、色々な知恵を出していただき、新しい酒田をどうするべきかというご提言をいただいて八幡地域が活性化することを期待します。今日は皆さんと時間が許す限りお話をさせていただきたい。色々な役職をお持ちで、さらにこの地域協議会の委員になられた皆様に感謝いたします。

## 8 会長・副会長の互選

～会長に池田昭則委員、副会長に新保直美委員を選出、設置条例第6条第2項により、会長の池田昭則委員が議長に就任～

## 9 会長・副会長あいさつ

○**池田議長** ただ今、会長に指名されました池田昭則と申します。八幡地域の発展のために皆さんの意見を聞きながら、意見をまとめながら一生懸命やって行きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

○**新保副会長** ただ今、副会長ということでお話しがありました新保直美と申します。皆様のご協力のもと一緒に会を進めて行きたいと思っておりますので、これからよろしくお願い致します。

## 10 会議録署名委員の指名

○**事務局** 会議に入る前に、会議録署名委員の指名を行います。会議録の署名は、設置条例施行規則第5条第2項において、「会議において選任された委員1名が署名しなければならない」とあります。そこで提案ですが、委員名簿の順番で決めたいと考えますが、いかがでしょうか。

(はいの声あり)

○**事務局** それでは、委員名簿の1番「齊藤善之委員」、よろしくお願い致します。

○**齊藤善之委員** はい。

## 11 旧3町の合併後の再評価について

○**池田議長** それでは次第の10番まで説明が終わっていたしましたので、引き続き次第の11番の旧3町の合併後の再評価について説明願います。

○**後藤地域振興課長** (資料7 旧3町の合併後の再評価について説明)

## 12 意見交換

○**池田議長** これまでの事務局からの説明の中で、委員の皆さんから意見・質問等ありましたらお受けしたいと思います。

○**土井明敏委員** 地域によって、道路一本はさんで都市計画税の負担の有無があり不公平感の声がある。見直しをかけていただきたい。

○**本間市長** 都市計画税は都市計画審議会にかけて決められる。その地域の都市づくりを目的としているが、今聞いたことは頭に入れて提出サイドに話をしてみたい。

○**小松幸雄委員** 酒田市で一番高いところに住んでいる。観光振興の視点で少しお聞きしたい。日向地区をモデルとしたグリーンツーリズムで予算がついている。八幡地域の滝ノ小屋線の道路の除雪で2つの役所の管轄に分かれているが、県などに酒田市で、もう少し早い時期に除雪をするように働きかけていただきたい。鳥海山荘・家族旅行村などの観光面でも効果があると思う。

○**小野建設産業課長** 除雪関係では先般の議会でも質問・要望をいただいた。滝ノ小屋線に

については、上のほうで道路の幅など積雪明けになっても危険な個所があり、自然に雪が解ける融雪時期を待ちたいとの県からの回答があった。

○**本間市長** 除雪というのは基本的に費用がかかり何も残らないが、作業している人には賃金として残り、経済としては回って行く。そんな中で鳥海ブルーラインの場合は県道として前は有料だったが、秋田県と山形県が競争する形で今はやっている。そういう意味でブルーラインと比べて、あっちが早くてどうしてこっちが遅いという話になるが、融雪を待っての費用削減の効果も少しはある。しかし、観光に直に結びついて来るのであれば、何日かでも除雪は早いほうが良いというのであれば、せざるを得ない。八幡もかなり雪が深く壁が出来るような状況なので除雪の費用も相当かかる訳ですが、頭に置いておきたい。

○**池田議長** 実際、どこまで除雪をしているのか。

○**小野建設産業課長** 湯ノ台から大台野に抜ける T 字路までやっている。それと鳥海山荘と家族旅行村があるので直接やってそこまでは通れるが、荒木沢まではやっていない。

○**池田議長** 荒木沢までやってもらえばだいぶ違うのでは。

○**小松幸雄委員** 牧場から 2 km 地点の舞鶴山の一番上の見晴しの良い所までやってもらおうと春スキーをやりに来る人は助かる。

○**池田善幸委員** 市長から除雪というのはお金がかかり何も残らないといったお話があったが、我々みたいに雪が多い所に住んでいて感じるのは、除雪すると路肩など引込まないので道路が傷まない。除雪しないから毎年道路の補修にお金がかかるなど感じている。鳥海ブルーラインや滝ノ小屋線にも行っているが積雪の多い道路ほど路肩が下がっているし傾いている。いち早く除雪をすることによって路肩が傷まず何千万円もお金をかけなくて済む。維持費はかかるが大きなお金はかからない。そのようなところが山岳道路の特徴ではないかと私自身は思っている。

先ほどの市長のあいさつの中で、2040 年度になると人口が 30 数%も減ってくる、しかし八幡は鳥海山の地域ということで観光面で先を考えると展望があるとのお話があったが、酒田市が玉簾の滝などにどれだけお金を懸けてきてくれたかとなると首を傾げざるを得ない。それから、今年、日本で成人した人が 122 万人だったが男女半々としても結婚する人が 60 万組位しかいなくなる。これからはいかに酒田市として若い人達を増やしていくことに力を入れることが大切である。今年の酒田市の中学の卒業生は千人を切れているということは聞いているし、鳥海八幡中の今年の卒業生は 103 人だった。東北公益文科大で何年か前にアンケートをとった結果、将来とも酒田に残りたい若者が多いとの集計が出たが実際には残っていない訳で、その責任は誰にあるのとなると行政にもあり、我々、大人にもあると感じる。そういう意味で産業面、観光面といった分野で魅力のある施策を追及しないと酒田市そのものがなくなってしまうのでは。私たち委員も意見を言うし、酒田市としても前向きで建設的な施策を期待する。

○**高橋知美委員** 自然活動を支援する団体で働いている。除雪の話があったが山の中の除雪と街の中の除雪とでは目的が根本的に違う。街では生活のため、足元の確保のためであるが、山は観光のために除雪をやられるといった話が先程あった。鳥海山にはイヌワシがいる。その鳥の繁殖の時期に早めに除雪をして人を多く入れると、イヌワシにとってどうな

のかなと私自身は思う。観光のために早めに除雪をとということであれば、山に詳しい人達と話し合っただけで除雪はどの時期からが適切なのか両者納得いく形で検討していただきたい。街中では除雪が十分でなく危険な所を歩いている子供たちもいる訳で、私達の身近な所からまずはきっちりやっていたらいいと思う。

○池田議長 除雪に関して、事務局で何か回答ございますか？

○小野建設産業課長 除雪については今の生活道路を含めて農道についても要望をいただいている。まずは、生活に密着した農道について除雪の対応をするとの農林担当課の回答があった。全地域パトロールをしているが目の届かないところもあるので、今後もそういった情報や要望は是非お寄せいただきたいと思う。

○加藤俊行委員 除雪の仕方について一つ申し上げたい。遊佐町も含め、この地域は北西の風が吹いて吹き溜まりが出来るケースが多いが、遊佐町に行くと風下に除雪しているが私の地区では風下だろうが風上だろうが関係なく両側に除雪していく。風が強いとその関係で「マブ」吹き溜まりが出来て1日3～4回も除雪車が来たことがあった。やり方としては無駄な仕事である。遊佐町に習った除雪の仕方を徹底すべきである。それから、地域内のほとんどの道路の西側・北側に縁石がついている。その縁石の影響で吹き溜まりが出来ている箇所も多い。ただ、今さら縁石を撤去するといったことも難しいと思うので、今後新しく道路を作るといった際は検討していただきたい。

○小松幸雄委員 今の加藤さんの除雪の件だが、同じ意見として感じるのが国道344号の安田地区である。時々通行止めになるが、あそこも縁石が邪魔になって折角防雪柵があっても吹き溜まりが出来た。毎年同じことの繰り返しで国土交通省は何をやっているのかと思われる。それから、八幡の第三セクターでがんばっているヨーグルトがあるが、牧場のあり方、今後について市長はどのようにお考えでしょうか。

○本間市長 牧場の現状を申し上げますと、八幡でヨーグルトを作っていて生乳も八幡で採れたものが良いだろうと市で経営しているが、最近の円安の影響で飼料代が高騰し大変な赤字が繰り返されていて容易ではないと感じている。建物の減価償却費等は市で支出してもやむを得ないと思っているが、牛が食べるエサ代が高くついていて悩んでいるところだ。以前は鳥海やわた観光に委託していたが、現在は別のところに代わっている。指定管理者も替わったが、2～3年でギブアップに近い状態になっている。これらを踏まえて今後どうするのかはこれからの話になる。

○小松幸雄委員 私も十数年前までは、あそこにお世話になっていた。草を刈る装置もあり、自分の牛のエサは少しでもそこで作るような工夫が必要だ。以前は夏になるとその刈った草を目当てに猛禽類がたくさん集まったが、今では草刈りもしないのでとても少なく感じるし自然と生き物の調和のバランスが取れていないのかなと思われる。

○本間市長 昔は飼料が採れるような種まき等をしていたが、ある時からやめてしまってエサとして使えるものが少なくなっているのでは。雑草に近くなっていると思われる。ただ牛は基本的に寒さに強いので自分で食べに行ったりは出来るかもしれないが、そう簡単ではないと思われる。

○小松幸雄委員 一生懸命に刈れば良い草が生えてくるが、刈る回数は減るとどうしても土

地は荒れてくる。今朝テレビで旭川の酪農を扱っていたが、牛を放牧すると勝手に草を食べることで放牧場がきれいになって動植物や人間にとって良い方向に回っているとのこと。八幡の場合は、せっかくイヌワシはいる、広大な土地・装置がある、ましてや観光地なのでもったいない気持ちでいる。私は山で蕎麦屋をやっているが、「あの牧場でアイスクリームを食べられますか？」と聞くお客さんが相当いる。そこは「たわわ」に行ってください、「鳥海山荘」に行ってくださいとなる。

○池田議長 牛がいるので、その場で食べられれば良い形だが。

○小松幸雄委員 牛乳は飲めるし、ソフトクリームなどの乳製品も食べられるとなるとこんなに良いことはない。食べられることに関しては。

○土井明敏委員 コスト等の採算性を考えた場合に今のようなことが可能であれば業者が既に参入しているのかも知れないが、採算性が伴わないからやらないのであって、それを行政側に望んでもここだけの地域を見ている訳でもないので、難しい問題と思われる。

○池田善幸委員 鳥海山の観光の関係で、にかほ市とか由利本荘市とかに行くと、ポスターから何から「鳥海山は秋田県」といった風潮が強い。山形県は蔵王とか月山しかイメージがないが、本来からすると鳥海山は山形県で一番高い山であり、日本百名山の一つでもある。頂上は遊佐町であるが酒田側から登る大台野の牧場を通るコースでなければ、雄大な景色を満喫は出来ない。そういう意味では、もっと酒田市としては予算を付けて鳥海山の観光をPRしてもらいたい。

また、今の円安で畜産のエサ以上に重油等の価格が上昇しており、山形県すべての市町村に温泉があるとのことだが、そういった温泉施設は負担が大変だろうと思われる。ゆりんこの他に松山・平田にも温泉施設がある訳で、飼料代だけでなく徐々に円安の影響が出てきている。その辺は市としてはどのようにお考えか。

○本間市長 池田さんのおっしゃっている通りだと思う。合併によって鳥海山も酒田市の守備範囲に入った。秋田は「ぐるっと鳥海」ということで色々なことをやっている。鳥海山については周囲を2km位歩くと形が変わると言われているが、地元に住んでいる人達はそれぞれこの景色が「自分の鳥海山」ということでそれだけ思い入れがある。そして山形から見た庄内というものは「異国」に感じ、要するに一緒じゃないということ。それを私は経済を一緒にするために、道路交通網・鉄道網を一緒にしましょうと話をさせてもらっている。観光面においても酒田までもっと早く来ればそれだけ鳥海山の奥まで先まで行ける時間が取れる訳であり観光バスにとっても良いことになる。そういった意味で庄内は山形からも東京からも遠すぎる。東京から秋田まで3時間45分で来るし、青森までは2時間51分で来る。酒田・鶴岡は3時間45分から、遅い便で5時間位かかる。庄内空港が出来る前は陸の孤島と言われていたが、そういう意味では鉄道でも陸の孤島になっている。この間、本を読んでいたら、庄内の酒井藩の殿様は「背中に月山という高い壁を抱えているので外部とは一緒にならなくても良い」という気持ちであったという。酒田は米などで外部との交流があった訳だが、外部とそんなに交流しないでも、やってこれたのはそれだけ庄内はある意味で裕福だったと思われる。私がミニ新幹線の話をして乗ってこない人が結構いるが、逆に、にかほ市とか由利本荘市の人が酒田まで新幹線が来てくれればなど

いうことが多い。東北地方に言えることだが、鶴岡もそうだが南の方は見るが北の方には行きたがらないし関心が薄い。

○高橋知美委員 今の話だと道路を作った分だけ人が来るような話だが、実際道路が出来たら通り過ぎていく人が出てくる可能性がある。この地域に魅力が無ければただ通り過ぎるだけで、そうすると落ちるものも何も無い。道路が出来たからここが潤うかどうかは別であると思われる。やはりここにどんな魅力があるのかを皆で話し合っ「あそこなら、お金をかけても行きたい」とならなければいけない。道路も大事だがやはり中身で勝負できるように施策していただきたい。

○本間市長 いろんな所で話をしているが今のような意見も確かにある訳で、私もストロー現象の可能性があるのでひょっとしたら危ないとの話もしている。現在、高速道路は新潟県境も秋田県境も繋がっていないし、山形から酒田に来る時も月山道路の16km、実際は21kmが繋がっていない。ミニ新幹線は新庄や秋田まで来て新潟はフル規格であり、この地域だけ抜けていて、「このままで良いんですか」というのがまず1つ。私は酒田の発展のためにはまずインフラ整備だと言っている。今、言われたことはその後に出てくる話である。特に言いたいのは酒田の港の話で、仙台とか東京から物を運ぶ時に20フィートの車は何とか通れるが40フィートになると通れない。月山道路もジャックナイフ現象が起きて交通事故になり通れない。国道47号線はやっと通れるくらいで頻繁にブレーキをかけながら通っている。酒田から石巻まで160km、新庄まで50kmあるが、そこに横軸を通すべきだと言っている。そうすると何が起きるのかというと、酒田で日東道と交差し新庄で東北中央自動車道と交差して古川で東北自動車道と交差する。そうすると酒田港が非常に近くなって来るし酒田港がガラリと変わる。今、仙台の業者の人達は新潟港や秋田港を見ているが、酒田港は基本的に使えない。これが使えるようになると物流がガラリと変わる。社会資本整備が出来ていと言われるのであればそうかなと思うが、そこまでも酒田は進んでいないというのが私の認識である。

○高橋知美委員 もちろん道路の必要性は感じるが、何もそれだけではないということを念頭に入れていただきたい。地域の質を高めることも大事である。道路を作る前に自然への影響などの調査研究をした上で通すのであれば誰も文句は言わない。自然は一旦潰すと復元するのは大変難しいので、その辺を考えていただきたい。

○本間市長 高橋さんと話をしてもたぶん永遠に終わらない。酒田で物を作って部品を東京に送りますとなった時に5時間かかりますとなると距離の分だけ部品代も上がってしまって買ってもらえない。そうすると工場も酒田に来ない。それだけ、ものづくりの会社は厳しいので、要は短時間でスムーズに行き来できることが大事だ。酒田のものづくりが活きるためにもインフラ整備はやるべきだと思っている。

○阿部喜至夫委員 話を鳥海高原牧場に戻したいが、経営は違うが「産直たわわ」で扱っている鳥海やわた観光のヨーグルトの原料である牛乳の供給が不安定になるというのはとても心配である。鳥海やわた観光で牧場の経営から離れたということで、子牛が生まれなかったことや経営的に成り立たないという判断をされて、現在別のNPO団体で管理されている。市長から話があったように大変経営的には厳しい。例えばフラワー長井線で行った

ような経営のプロを公募して、にかほ市のジャージー牛乳の牧場のようによく知っている経営のノウハウに詳しい人を雇って、牧場で牛乳やソフトクリームを食べられるような経営をしてもらえれば良いのかなと思う。平成25年度の予算の中で「ゆりんこ」の増改築事業ということで3千5百万円ほど予算化している。綿密な計画の中で予算化されたと思うが、鳥海高原牧場の経営基盤の安定化や事業の拡大化というものも市で検討していただきたい。

○池田議長 ただ今の意見に対して何かありますか。

○本間市長 確かに子牛が生まれなかったのが悪かったし、子牛が生まれると利益が上がるのは鳥海やわた観光でも知っていたが自分達でやっていた頃はダメだったと言っている。鳥海やわた観光の社長の話では、生乳の採れる適切な時間を無視して従業員は自分の勤務時間に合わせて生乳を採ろうとする。そうすると牛にストレスなどの弊害が起きる。乳が張ってきた時に自動的に生乳を採れる機械もあるが予算的に導入するのは難しいので今はやれる範囲でやっている。最終的には飼料代等で採算が合うのかどうか見つけて行きたい。

○池田議長 他に何かありますか。

○小松幸雄委員 酒田市のパンフに「地域で支えあう福祉のまちづくり」とある。今年の2月に酒田市の福祉課から日向地区をモデルとして高齢者宅等の敷地の除雪をしてもらった。酒田市の議員・職員などが来られて一斉にやってもらったが、やってもらった人達は非常に喜んでいて。玄関もどこにあるのかわからない程の雪の多さに皆驚いていた。そんなこともあって、これから日向地区で1人でも2人でも多く働いて生活できるような施策を願いたい。それと日向地区をモデルとしたグリーンツーリズム事業で2百数十万円の予算が付いているが、どのような使い方をしたら良いか市長にご意見があればお聞きしたい。

○本間市長 地元に残りたいという若者がいる訳だが、稲作をやっている農家の人は自分の息子に農家をやれと言う人は少ない。転作田に転作の作物を植えている人も少ない。庄内の民間の平均給与は240万円を切っているかもしれないが、仮に若者が田舎に残ってどこかに就職して給料が月15万円でも親元から通うことが出来れば、東京で暮らすよりずっと良い。今度「プレステージ」という会社が5百人規模で京田西に来るが、その5百人がそう簡単に集まらない、特に20代、30代の人。「早く集まれば千人規模にしますよ」と玉上社長が言ってくれているが集まらない。それは何故かという仕事の内容がコールセンターみたいなセールスで物を売らないと給料が上がらないみたいにマスコミが報道している。そうではなくて、アウトソーシングいわゆる、ある会社の相談窓口とかを受注していて、物を売るのではなく対応業務である。

○小松幸雄委員 山形県で緑環境税を徴収している。森林が荒れているといった問題も抱えているが大きな業者にだけ税金を投資して森林整備をやっているようだが、そういった仕事をやりたいといった若者もいる。そういう人達にも税金を使ってもらいたい。公益大で講演があり行ってきたが、庄内の高校を卒業するのが年間約2千8百人でその半分も残ってくれればたいしたものだとの話だった。高校生の話を聞くと、ほとんど地元に残りたいというのが本音だったが、「仕事がない」、「給料が安い」、「嫁さん貰っても生活が出来ない」というのが大きなネックになっているとのことだった。その辺を行政のほうでどのよ



うにバックアップ出来るのかもある。日向地区のある農家の息子さんの話で、私が「給料いくら貰っているの」と聞いたら「実際は全然もらえないので稲刈りが終わって農閑期になったら稼ぎに出る。そのお金を自分の小遣いとして年間を通して使っている」とのことだった。農家のそういったことを聞くと大変だなと思う。農家の継承問題を含め解決策があればと考える。

○池田議長 今後の会議の中で、皆さんで話し合えればと思われる。先程、市長が仰ったジャックナイフとか何フィートとかの意味はわかりますか？何フィートというのは海上コンテナの長さであり、それが長すぎると急カーブでトレーラーヘッドと荷台の部分がジャックナイフみたいになってしまって元に戻らなくなってしまいう現象を言う。冬場でも急ブレーキを踏むと後ろの荷台から押されて同じ状態になってしまう。市長は、ある程度カーブをゆるくしないと大きな車、長い車は通れませんよと言われている。ですから、ここから太平洋側まで道路を通すには相当な幅がないと通れないということになる。災害等があった時にスムーズに早く行ける道路があればと思われる。例えば国道47号の古口で土砂崩れ等で通行止めになった時、国道344号の青沢越えで車の往来が激しい場合もあり、もう少しちゃんとした道路の必要性を感じる。

○土井明敏委員 市長みたいな人材がもう少し早く酒田に来たら良かったなと思っている。市長の構想を後押し出来るように、地域への呼びかけは必要だと感じる。

○池田議長 発言されてない方、いらっしゃいましたらどうぞ。

○荒生栄治委員 安田バイパスの話が出ていたが、現在の進捗状況をお聞きしたい。

○本間市長 先程、安田地内の冬場の国道で縁石の関係で吹き溜まりが出来てしまうといった話があったが良く見ていると感じる。今年も2回程通行止めになった。安田バイパスの土地の買収の関係で全く動こうとしない1人の頑な（かたくな）な地権者のためにストップしていた。そこで現在の道路の側溝に蓋をして拡幅工事を行ったが、八幡の人達からみれば不満が残る感じだった。安田バイパスの話は庄内総合支庁に確認しても中々進展していなかったが、ある日、県知事がこちらへ来て知事とのトークの時に、八幡の人が安田バイパスの話をしたら、知事が県庁に戻ってから担当部署に「ちゃんとやりなさいよ」となって、今までと別のルートでの調査費の予算が平成25年度に付いた。調査費が付いたので今後、時間はかかるかも知れないが、この話が出て三十数年になるが、これからは話が進むだろう。

○池田議長 康晴さん、何かございますか。

○佐藤康晴委員 農業の高齢化、担い手不足が課題になっているが、親父さんが農業で息子が会社勤めのケースが多いが、だいたい75歳位までは田んぼは作れるが、そうすると息子さんも50歳位にはなっている。親父さんが農作業が出来なくなって、「息子よ農家をやってくれ」となっても難しい。酒田だけでなく庄内平野全体がそういった雰囲気だと思うが、今後どのように美田を守って行くのか、誰がやるのかといった方向で検討しないと農業が成り立たなくなってしまう。山間地・中山間地では集落崩壊の心配も出てくるのではと考える。耕作放棄地も増えており、条件の悪い山間地は大変な事態になってくるのかと

思われる。農協でも今後どのようにやっていったら良いのか、受け皿作りということも検討してゆくことになっているが、行政の方からも大きな力を貸して頂かなければ、山間地域などはどんどん衰退していくと思われる。

○池田議長 佐藤康晴委員は農協の理事として是非頑張ってもらいたい。村上さん、何かございますか。

○村上薫委員 自分は民生委員もやっているが、升田地区など一人暮らしや高齢者世帯が増加している。今後、しばらくすると地区が半分くらいになる状況で、それをどうやったら食い止められるのかとなるが若い人がいないと防止策もない。酒田や都会に出て行って、子どもは居るが家には居ないといったケースが多い。今後ますます山間地では暮らしにくい状態になるのかなと思っている。シルバー人材センターの仕事もしているが、人材センターそのものが高齢化が進んでおり課題もあるのが事実である。

～市長が退席～

○池田議長 長谷川さん何かございますか。

○長谷川委員 この間、ある会議で仙台の人達は庄内のことをほとんど知らないということを知った。庄内のおいしい空気・水はもちろんだが、鶴岡のあるレストランでは野菜にサッと塩をふっただけでおいしい料理になっていて全国に発信している。庄内の人はおいしい物がまわりにいっぱいあるのが当たり前のように何も感じないでいる。例えば鶴渡川原で小さいキュウリを作っているが、ごく一部にしか発信していない。庄内の良さを情報発信出来ないでいる。鳥海山にしても発信の手立てをして、全国の色々な場で山形県知事ではないが、庄内、酒田をアピールして行くべきである。

○池田議長 後藤純子さん何かございますか。

○後藤純子委員 普段、生活をして感じていることで数点お聞きしたい。八幡の入口の国道の沿道の花の件だが、現在は雑草が生えている状態だ。以前は業者に管理委託していたとのことだが、それが出来ないのは予算の関係なのか。「花いっぱい」の予算が30万6千円しかないのでは以前の業者委託ではないと思うが、八幡の入り口ということで、もう少しきれいにしてほしいと思われる。あと、地域を散歩していると空き家になって崩れて危険な状態になっているものが見受けられる。近所の人々がハラハラして見ているが、そういった空き家の対策はどうなっているのかお聞きしたい。もう1点、火葬場に行く途中の左側にスケートボード場があるが、かなり傷んでいるのが目に付くので、今後どうされるつもりかお聞きしたい。

○佐藤支所長 花の植栽については以前、業者に委託をしていた。現在は、各地区に種子を配布して沿道や公園に植えてもらっている。地域としては大島田地区になるが、大島田の住居地域からも離れている関係もあり、また、今までお客さんを八幡に迎える入り口ということで業者に委託していたが予算的に難しい。危険な空き家の関係では、自治会長さんに一昨年、空き家調査をお願いした経過がある。山間部の空き家については崩れていても隣近所に影響はないので放置される可能性はある。しかし、住宅密集地だと隣の家や道路に倒れてくる危険性が出てくるが、持ち主の居場所がはっきりしないケースもあり対処が

難しい場合もある。スケートボード場の関係では、若者が利用しているということで遊んだ後の後片付けが苦手なのかなと考える。

○後藤純子委員 かなり傷んでいるように見えるが使えるのか？

○佐藤支所長 ゴミ屋敷のゴミと同じで屋敷の住人から見れば財産な訳で、老朽化していても、使用する人から見れば大事な物である。

○池田議長 危険な状態ではないのか？

○佐藤支所長 そこを通行する分には危険でない。遊ぶ人が危険かどうかは遊ぶ人の判断だが確かに老朽化はしている。

○後藤地域振興課長 スケートボード場の施設については、使用している人達が随時自分達で補修して使っているようだ。

○佐藤支所長 ただ、ゴミが散乱していると、観光施設も近く、葬祭場へ通る人達もいるので、清掃面では指導して行きたい。

○後藤純子委員 花の関係は大島田の方々にお任せするという事か。

○佐藤康晴委員 前は老人クラブでやっていた。国道の脇だとどうしても乾燥してしまう。水をやるのも大変な仕事で長続きしなかった。現在は県で草刈りも来ないので、防雪柵の根元から草が生えっ放しで見た目も悪く、八幡の入り口としてはマイナスイメージである。

○後藤純子委員 大島田地区だけにお任せするのは、どうかと思う。

○佐藤支所長 地域の皆さんにお願いしてきた経緯があるが、長年続けているとどうしてもくたびれてくる。水をやるのがとても大事で、雑草と違い植えた物は水をやらないと生えてこない。しかも肥料もやらなければならないとなると世話をするのも大変であり、地域の人達だけにお任せするというのは難しい。

○後藤純子委員 予算を取って業者に委託というのは出来ないのか？

○佐藤支所長 業者委託は何百万円という多額の費用がかかっていた。規模を小さくするか、種を植えたら手をかけなくても生えてくるようなものでもあれば良いが、そうになると雑草も生えてくるといったジレンマがあるので難しい。

○佐藤康晴委員 以前は毎年堆肥をやっていたが、雨が降るとすぐに土が流れてしまい碎石が出てくる状態になってしまっていた。

○池田善幸委員 山形県の県道であれば「マイロード事業」というのがあるが、その事業を升田の生産組合で受けている。昔は田んぼの地主が自分の田んぼの他に車が通る道路まで草刈りをしていた。最近は何を取ってきたせいか、自分の田んぼの分しか刈らない。草津の弥生橋、発電所の所から升田の入り口の所まで延長が1,100メートルあるが、「マイロード事業」ということで県に申請して年間4万円ほど頂いている。生産組合では花は植えないで草刈りを年間3回程やっている。女性部でも空き缶拾い等のクリーン活動をしている。八幡の入り口の所の草刈りも、地域の自治会とか生産組合で、この事業制度を来年度あたりに向けて申請してみてもどうか。

○佐藤康晴委員 道路の縁石も草刈りの障害になっている。

13 その他

○池田議長 他に事務局及び委員の皆さんから何かありませんか。

○佐藤支所長 先程、事務局からこの協議会の開始時間について基本的に午後 1 時半からとの説明があったが、午前中ではどうか。

～委員から数点意見が出たが、行事等を考慮しケースバイケースで対応することに～

○佐藤支所長 地域協議会の資料は事前に送付するので、委員の皆さまは事前に資料に目を通して頂き、会議をスムーズにさせて行きたいのでご協力願いたい。

#### 14 閉 会

○池田議長 ほかにご意見はございませんか。ないようですので、閉会を副会長お願いします。

○新保副会長 それではこれもちまして、第 1 回目の地域協議会を閉会いたします。委員の皆さんご苦勞様でした。